

立川市第6次生涯学習推進計画
令和5年度取組状況の進捗評価表
(令和6年度実施)

立川市第6次生涯学習推進計画令和5年度取組状況の進捗評価表 (令和6年度実施)

1. 評価対象となる「具体化の取組」と取組状況・成果

取組	I-1-① 市民ニーズにこたえる事業の推進
目的	学びを求めるすべての市民が、学びたい内容を、学びたい方法で、学びたい場所で学べるよう、多様な学習機会を創出します。また、市民のニーズを掘り起こしたり喚起したりするような事業を展開します。
主 関 係 する 事業	●市民交流大学運営事業 ●地域学習館事業
取 組 5 年 度 状況	市民企画講座：開催数33件、参加者数1,602人（令和4年度開催数43件、参加者数1,902人） 団体企画型講座：開催数23件、参加者数1,330人（令和4年度開催数23件、参加者数1,285人） 行政企画講座（開催数472件、参加者数61,015人）（令和4年度開催数429件、参加者数62,588人）
事業の 今後の 成果・課題 の方向性	【成果】たちかわ市民交流大学の柱のひとつに位置付けている、市民主体の市民企画講座を、市民参画組織の市民推進委員会が市民目線で展開しました。また、地域の組織、サークル、団体等と連携して実施する団体企画型講座、地域学習館運営協議会が実施する地域活性化講座などの行政企画講座を開催し、市民ニーズに即した学習機会を提供しました。 【課題】市民交流大学事業全般において、年齢等に関わらず市民の誰もが、生涯に渡り学習機会を享受できる環境を整えていくことが継続した課題です。 【今後の方向性】市民と行政が真に協働して講座を実施する仕組みは、他自治体を見ても画期的です。今後も、市民力でつくる生涯学習社会の実現のため、講座の内容面の充実とともに事業の発展を目指していきます。市民推進委員会は発足して16年が経過し、委員の高齢化が進んでいます。今後も継続して市民目線の講座を届けるため、特定の市民推進委員に過度な負担がかからないような働きかけや効果的な入会案内の周知等、活動しやすい環境づくりや新規入会者の増加につながるよう支援していきます。

2. 前年度のコメントに対する取組

4 年度 （抜粋） 総 評	市民推進委員に多様な世代が参画することは評価できます。新しい動きが新しい展開になることが期待されます。時代や必要に合わせて質の高い事業をわかりやすく発信していくなど、市民に寄り添い協働して、学習機会を提供することが望まれます。
5 年度 取 組 内 容	市民推進委員会については、令和5年度に会長が代わり、新しく40歳代の委員が加入し、サポーターが委員と共同で講座企画ができるようになるなどの受講者の年齢層の変化に対して対応するための新しい動きが見られます。 一方、動画の配信等、オンラインの活用については著作権など様々な課題がありますが、この課題解決のため、5年度にデジタル担当を発足させました。デジタルデバインドなどの問題もある中、デジタルでの発信の必要性を含め情報発信の方法などの検討を進めています。

3. 生涯学習推進審議会によるコメント

総 評	市民推進委員会の構成員が若返るなど、幅広い年齢層の市民に対応できるような体制になったことは画期的であり、受講者層の裾野が広がることにも期待します。また、幅広い市民ニーズや即時に市民ニーズを把握できるよう講座受講後のアンケートの内容などについて工夫してください。 デジタル担当が発足したことは評価できますが、多様な世代やより多くの方が講座等を受講するためにデジタルデバインドの解消が必要です。 また、講座をハイブリット配信にしたり情報発信の方法を工夫するなど、市民目線の講座が行政サポートの元、展開されることを期待します。
--------	--

4. 評価

評 価	B	S：予想以上に効果的で優れた取組を行っている A：順調に達成している B：おおむね順調に達成している C：達成見込みであるが一部課題がある D：達成に向け困難な課題がある	過去の 評価	6年度	5年度	4年度	3年度	2年度
						B	B	B

立川市第6次生涯学習推進計画令和5年度取組状況の進捗評価表 (令和6年度実施)

1. 評価対象となる「具体化の取組」と取組状況・成果

取組	I-1-② すべての人が学べる機会の提供
目的	時間的制約や障害の有無、年齢や性別、国籍の違い、経済的格差などにかかわらず、すべての市民が学ぶことができるよう、さまざまな方を対象とした学習機会を提供します。また、障害のある方が講座などに参加される際の情報保障や、保育付き講座を推進します。
主関 係する 事業	●青春学級事業 ●成人対象事業 ●生涯学習活動推進事業 ●高齢者対象事業 ●子ども対象事業
取組 5年度 状況	障害者理解講座等：開催日数17日、延べ参加者数152人（前年度：同16日、同105人） 寿教室：9教室、開催日数330日、延べ参加者数7,642人（前年度：同331日、同8,361人） 家庭教育講座：開催日数34日、延べ参加者数680人（前年度：同26日、同371人） 青春学級：登録人数51人、開催日数71日（前年度：同52人、同71日） いきいきたちかわ出前講座：開催18講座、延べ参加者数208人（前年度：同20講座、同182人）
事業の 今後の 成果・課題 の方向性	【成果】各学習館に設置されたWi-Fiを利用しオンラインを活用した講座を開催したり、コロナ禍の前と同等の活動が実施できました。寿教室については、隔年行事の「バスハイク」を行うなど継続して開設・運営し、健康づくりと生きがいの創出を中心としたメニューを提供し、高齢者の社会参加を促進しました。また、平和・人権学習、子ども対象、多文化共生・国際理解などのテーマごとにプロジェクトにして取り組み学習機会の提供ができました。青春学級事業は、委託化により専門的な活動としての充実度を増しています。ハンドベル演奏や相談業務を実施した他、保護者の要望の高かった「宿泊研修」を実施しました。 【課題】日本語を話せない人たちや障害者が参加可能となる講座やイベント開催が求められています。が、たちかわ市民交流大学事業の中では、一部の講座に限られています。 【今後の方向性】多様な人々が学習機会を享受することができるよう環境を整え、引き続き取り組みます。

2. 前年度のコメントに対する取組

4年度 （抜粋） 総評	おおむね各世代を対象とした講座を開催できていますが、多様性を視点に、合理的配慮も含め誰でもが参加しやすい諸条件を、一層整えていくことに努めて欲しいです。専門的な知識を有する職員がいないことは課題で、人員配置や研修などで専門性を向上する必要があります。一つの方向性として高齢者や障害のある方、日本語を話せない人たちへの対応など、専門的なNPOなどとの協働の輪を広げていくことも大切です。
5年度 取組 内容	例年に引き続き令和5年度では障害者理解事業である「誰でもコンサート～ヴァイオリン4重奏～」や「アール・ブリュット立川～高松の風」を、多文化共生・国際理解事業では「多文化共生に向けてやさしい日本語」講座を実施しました。令和6年度も引き続き事業を行うとともに、職員をはじめ生涯学習事業関係者への参加を促すなど共通理解への一助としていきます。 専門的な知識を有する職員はおりませんが、青春学級事業では専門知識のある団体へ委託したり、多文化共生講座では担当部署と協働し事業を実施しました。

3. 生涯学習推進審議会によるコメント

総評	様々な対象者に向けた講座が展開されていることは評価できますが、「ベビーカーもOK！みんなでイス♥ストレッチ」のように若い世代から高齢者まで幅広い層の参加者が交流を図れた事業がある一方、寿教室のバスハイクでは高齢化により実施が困難で見直しが必要な事業もあります。 障害者や多文化共生に対する理解をテーマにした講座では、開催数が少ないこと、協働が道半ばとなっていることなどが課題として挙げられます。専門的な知識を持つ団体や関係部署等と連携したり、現地参加やオンライン参加など参加方法に関わらず受け入れ体制を整え、参加しやすい配慮をすることが求められます。 社会的自立や交流を支援するための事業を推進し、学びを保障することを継続し、共に学ぶことで更に深い学びにつながることを期待します。
----	--

4. 評価

評価	評価	過去の	6年度	5年度	4年度	3年度	2年度
B	S：予想以上に効果的で優れた取組を行っている A：順調に達成している B：おおむね順調に達成している C：達成見込みであるが一部課題がある D：達成に向け困難な課題がある				B	B	B

立川市第6次生涯学習推進計画令和5年度取組状況の進捗評価表 (令和6年度実施)

1. 評価対象となる「具体化の取組」と取組状況・成果

取組	I-2-① 交流の場や機会の提供
目的	「知縁・学縁」の形成や講座内容の充実・発展のため、受講者や地域学習館利用者同士の交流や、学びに関わる組織のスタッフ同士の交流の場を設けます。また、「学社一体」の実現への第一歩として、学校教育関係者と社会教育関係者が双方のニーズを把握することができるような方策を検討します。
主な関係する事業	●市民交流大学事業 ●成人対象事業 ●子ども対象事業 ●高齢者対象事業 ●地域学習館まつり事業 ●学習等供用施設管理運営 ●社会教育関係団体等の育成事業 ●地域学習館事業
取組状況	地域学習館運営協議会交流会：1回（前年度：1回） たちかわ市民交流大学市民推進委員研修会：中止（前年度：開催数1回） たちかわ市民交流大学市民推進委員会サポーター会：1回（前年度：中止） たちかわ市民交流大学市民推進委員きらきら交流会：中止（前年度：中止） 地域学習館「まつり事業」は、5学習館で開催（砂川学習館は建替え中のため開催なし） 各学習等供用施設「まつり事業」は10館で開催（滝ノ上会館は中規模改修工事のため開催なし） 隔年度行っている「バスハイク」を5教室で開催（高齢者事業）
事業今後の成果・課題	【成果】地域学習館「まつり事業」は建て替え工事中の砂川学習館を除いた5館で開催できました。また、地域学習館運営協議会交流会を実施し「学習館事業における地域人材活用について」をテーマに地域を活性化させるための学習館の役割などの研修及び、スタッフ間の交流を行いました。学習等供用施設では地域の住民団体が指定管理者である利点が活かされ、会館まつりなどのコミュニティ事業で地域住民の交流の場や機会が提供されました。 【課題】安全安心の確保をしつつ、開催するための方向性などを実行委員会、地運協等と連携し開催の有無の協議を事前に進めていくなどの準備が必要と考えます。 【今後の方向性】地域の特性も持った事業を展開します。利用する団体と地域の団体等の交流を進めることで、地域の拠点としての存在感を高めます。利用者の高齢化が進むことから、異なる世代の参加を促し、幅広い世代の利用に繋がります。

2. 前年度のコメントに対する取組

4年度総評 (抜粋)	スタッフ同士が交流し、さらにより良い学びに繋げていくことに期待します。そのためにも、まつり事業等が地域に定着し、住民になじみある事業として、継続的に取り組まれることが求められます。地域学校協働本部との連携に地域差を感じるため、学習館と地域学校コーディネーターとの顔合わせ的なものを年数回計画する等、連携に向けて一歩踏み出すための努力が必要です。
5年度取組内容	各学習館の「まつり事業」は建替え中の砂川学習館の他全館で実施できました。参加団体についてもコロナ禍前に戻りつつあります。学習館と地域学校コーディネーターの連携では地域学習館運営協議会に毎回参加や別の機会を設けての連携などを行っている学習館もありますが、一方で、地域学校コーディネーターの参加実績のない学習館もあります。 令和5年度には、たちかわ市民交流大学市民推進委員会サポーター会を開催しました。

3. 生涯学習推進審議会によるコメント

総評	確かな地域づくりに向けまつり事業などの実施は効果的だと思います。市民を対象とした「生涯学習に関するアンケート」でもオンライン参加よりも対面方式での参加を求める意見が一定数あり、対面交流の必要性も示されています。また、新しくしたまつりの愛称が地域に根付き始めた学習館があるなど、新たな方式や新たなメンバーで開催することにより交流の場がさらに拡充されることを期待します。 学習館と地域学校コーディネーターが定期的に顔を合わせる機会を設けることは、子どもたちを地域で支え・育てるという意識や体制づくりをする上で意義のあることですが、一部の学習館以外交流が行えていない現状があります。地域学校コーディネーターと学校、学習館の相互理解をもっと図る工夫を望みます。
----	--

4. 評価

評価	評価	過去の	6年度	5年度	4年度	3年度	2年度
B	S：予想以上に効果的で優れた取組を行っている A：順調に達成している B：おおむね順調に達成している C：達成見込みであるが一部課題がある D：達成に向け困難な課題がある				B	B	B

立川市第6次生涯学習推進計画令和5年度取組状況の進捗評価表 (令和6年度実施)

1. 評価対象となる「具体化の取組」と取組状況・成果

取組	I-2-② 地域課題の共有化と解決に向けた学びの推進
目的	市民の学びあいの機会を育み、地域課題の共有化と解決に向けた市民の主体的な学びを創出するための支援が求められています。地域課題の認識を深め、解決策の検討に参画し、地域に自らが主体的に参加し協働するまでの流れを意識した講座などを充実させ、学びの成果を地域に生かし還元できていることの見える化を図ることで、社会や地域に貢献したい、社会をよくしたいと考える市民の方が一人でも多くなるよう努めます。そして、子どもから大人まで多くの市民が参加したくなるような「立川市民科」の定着とさらなる発展を目指します。
主 関 係 する 事業	●市民交流大学運営事業 ●成人対象事業
取組 5 年度 状況	地域課題に取り組んだ地域学習館事業としての西砂学習館の「西砂サマーイベント」は、改修工事中であったが開催日等を工夫し7年目の開催となり、多くの協力者のもと開催、定番化しています。また、社会や地域に貢献できる学びとして「立川市民科」講座や障害者理解講座、多文化共生・国際理解講座を実施しました。
事業の 今後の 方向性・課題	【成果】地域の子どもたちの夏休みの居場所づくりを目的とした西砂学習館の「西砂サマーイベント」は、対象の子どもたちの居場所確保だけでなく、この事業が地域に浸透しており、地域の協力体制がさらに高まり、地域づくりという観点で大きな成果をあげています。また、高松学習館の障害者理解講座についても、地域や関係団体の協力のもと、さらに幅広い事業の展開が見込まれています。地域に限定した特徴的な取り組みからのスタートですが、他の地域への刺激となっていることも大きな成果の一つです。 【課題】引き続き、地域課題の解決に結びつくような講座として、多くの市民が参加し「立川市民科」としての定着が必要であり、さらに工夫を重ねて進めていくことが課題です。 【今後の方向性】学びの成果を地域課題の解決に生かしていくことが、これからの生涯学習活動に求められるものであり、「立川市民科」の取組みとしても関連しています。「子どもの貧困」「少子高齢社会の到来」など、行政課題の共有化と解決に向けた取り組みを継続して進めていきたいと考えています。地域学習館運営協議会同士が連携したり情報を交換したりしながら地域課題の解決を目指します。

2. 前年度のコメントに対する取組

4 年度 総 評 (抜 粋)	各学習館で進捗に差が生じているようですが、地域の特性に合わせて無理のない範囲で他の学習館の実践を参考に事業を展開すると同時に、情報交換会や他の学習館への出張講座などがあると良いと思います。
5 年度 取 組 内 容	令和5年度では柴崎学習館において実習生や地域の学校へボランティアを募り「冬休みこどもまつり」を開催しました。また、柴崎学習館で行う平和学習講座を高松学習館に配信しオンライン講座としての開催を行いました。砂川学習館においては建替え工事中のため、他5館と歴史民俗資料館において、「砂川学習館歴史と文化の資料コーナー」巡回展を行い連携を進めました。

3. 生涯学習推進審議会によるコメント

総 評	立川市民科の取組によって住民の地元への愛着を育んでいることや、「西砂サマーイベント」を参考に長期休みの子どもの居場所づくりを他館でも取り組むなど、共通の地域課題を共有化して、学びの場が広がってきていることは評価できます。 地域課題はデジタル化や地球温暖化など全国的・世界的な課題とも結びついていることが多いですが、目的欄に記載されている状態を実現するためには市民の主体的な学びが推進されるような取り組みが求められ、地域課題を自ら見つけ、解決につなげていけるような企画が必要です。
--------	--

4. 評価

評 価	評 価	過 去 の 評 価	6年度	5年度	4年度	3年度	2年度
B	S: 予想以上に効果的で優れた取組を行っている A: 順調に達成している B: おおむね順調に達成している C: 達成見込みであるが一部課題がある D: 達成に向け困難な課題がある				B	B	B

立川市第6次生涯学習推進計画令和5年度取組状況の進捗評価表 (令和6年度実施)

1. 評価対象となる「具体化の取組」と取組状況・成果

取組	I-3-① 市民とともにつくる学びの場づくり
目的	市民の力を生かして活動している各種団体と協働し、市民参加による学習機会の創出に取り組みます。市民が自ら企画できる公募型の団体企画型講座は、より多くの団体に活用していただくことで、多様な講座が展開されるようバックアップします。
主 関 係 する 事業	●市民交流大学運営事業 ●成人対象事業 ●学習等供用施設管理運営
取組 5 年度 状況	たちかわ市民交流大学市民推進委員会の企画する講座の中で、一部学生にも講座運営にご協力いただきました。 公募型団体企画型講座では、より公平で幅広い応募が得られるよう平成31年度に募集内容を一部見直していますが、令和5年度にも新規の申込がありました。 公募型団体企画型講座：10件、うち新規3件（令和4年度：同11件、うち同3件）
事業 今後の 成果・ 方向性・ 課題	【成果】市民推進委員会が学生と一緒に運営したことで、講座をつくる側での世代間の意見交換や情報共有がさらに深まり、講座運営の幅が広がりました。 公募型団体企画型講座では平成31年度に公募内容を見直したことにより、公平な実施と新規団体が参加しやすい環境につながりました。 【課題】学生との連携で、講座をつくる側での世代間の交流は深まりましたが、引き続き、講座受講者に若年層を呼び込むという点では課題が残ります。公募型団体企画型講座では、より多くの市民団体が講座を開催できるよう、また、さまざまな年代の方が講座に参加できるよう広報手段等を見直す必要があります。 【今後の方向性】公募型団体企画型講座については、引き続き様々な方法による周知に努めます。また、市民交流大学事業の大きな目的の一つとして、「生涯学習からはじまるまちづくり」を推進することが挙げられていることから、講座事業の中で、「学習者から実践者へ」という広がりへの意識を持ちながら、学びの循環がしやすい企画を行います。

2. 前年度のコメントに対する取組

4 年度 総 評 (抜粋)	講座企画段階から学生が参加するようになったことは評価できますが、若年層の参加につなげるためSNSを使って同世代に発信してもらうことで参加者を増やしたり、「スマホ何でも相談」におけるボランティアのように実践者として経験を積む機会となる企画も期待されます。
5 年度 取組 内容	令和5年度は、高松学習館では「たかまつり」などにおいて、若年層の参加を意識した内容としました。たちかわ市民交流大学市民推進委員会の企画する講座の学生との協力については、講座実習にとどまりましたが、部会にも出席してもらい、学生との連携に努めました。学生が授業の後に参加できないかと、夜間の講座を実施しましたが、学生の受講にはつながらず、さらなる工夫が必要です。

3. 生涯学習推進審議会によるコメント

総 評	市民交流大学市民推進委員やサポーターの入会が多く、サポーターから委員へ移行する方もおり、今後も市民の学びを推進する担い手を増やしていくことが大切です。また、市民推進委員会とそれ以外の活動団体との連携や交流ができるとさらに学びの場が広がると思います。市民推進委員会の活動内容を市民の方にも知ってもらう機会を設けられるとより効果的と考えます。 大学生と連携ができるのは立川市の大きな強みです。そのことを活かしつつ、市内の高校生等も参画できるように、学校を通じた呼びかけなど周知の工夫をする余地があります。学生や若年層の講座受講につながるように、これまでの実績を分析し、それを活かした企画が期待されます。参加意欲を高める講座や生涯学習を通してメリットを感じる部分を増やすことで、今後の学びの場を市民とともに創造する大きな力になるはずです。
--------	---

4. 評価

評価		過去の評価	6年度	5年度	4年度	3年度	2年度
	B	S：予想以上に効果的で優れた取組を行っている A：順調に達成している B：おおむね順調に達成している C：達成見込みであるが一部課題がある D：達成に向け困難な課題がある			B	B	B

立川市第6次生涯学習推進計画令和5年度取組状況の進捗評価表 (令和6年度実施)

1. 評価対象となる「具体化の取組」と取組状況・成果

取組	I-3-② 各種団体・組織などと連携した学習機会の創出
目的	市内や周辺地域には、高等教育機関や研究機関、活力ある民間企業など、連携・協働により魅力的な事業を展開できる可能性を秘めたさまざまな組織に溢れています。それらの組織と手を取りあい、多様な事業を展開します。 また、生涯学習活動は広範な分野にわたり、全庁的に取り組まれています。たちかわ市民交流大学庁内調整委員会を中心とした調整に努め、連携・協力して事業を行います。
主関連する事業	●市民交流大学運営事業 ●成人対象事業 ●催物事業 ●青春学級事業 ●地域学習館まつり事業 ●学習等供用施設管理運営 ●八ヶ岳山荘管理運営
取組状況 5年度	たちかわ市民交流大学事業として行われる講座などで、国立極地研究所、国立音楽大学などと連携しました。市と包括連携協定を締結した令和4年度に引き続き（株）コスモマーチャンダイズィングとともに、連携型の団体企画型講座を開催しました。また、平成28年度に連携・協力に関する協定を締結した東京学芸大学とは、前年度に引き続き講座の開催だけではなく、地域学習館まつり事業などのイベントに主体的にご協力いただきました。このほか、東京女子体育大学の公開講座の募集を広報たちかわやたちかわ市民交流大学情報誌「きらり・たちかわ」で、市民にお知らせしました。
事業の成果・課題 今後の方向性	【成果】市内にある国の機関や企業、大学という知的資源を活用することで、より専門性の高い講座を市民に提供することができました。また、東京学芸大学との連携・協力では、学生視点での取り組みがなされ、これまでに不足しがちだった若年層へのアピールにもつながりました。 【課題】市内の高等教育機関等は他にはない地域資源であり、高度なレベルにある知的資源であることから、これらをいかに効果的に市民に還元していくかが重要です。市民の学習ニーズと知的資源を結びつける職員のコーディネート能力が、引き続き必要とされます。 【今後の方向性】貴重な地域資源の活用という点で、他の自治体にはない立川市独自の優位性があります。今後も引き続き関係機関との連携を大切にしたいと、より市民ニーズに合った講座に結びつけ、生涯学習の推進に役立てていきたいと考えています。

2. 前年度のコメントに対する取組

4年度総評 (抜粋)	市内にある国の機関や企業・大学という知的資源を活用する事で、より専門性の高い講座を受講できるため、連携・協力による学習機会の創出に引き続き取り組むことが望めます。立川市は、多摩地区の交通の要衝でもあり、新たに転入してきた企業などの情報をキャッチし、着実に連携先を増やしていく努力が望めます。
5年度取組内容	引き続き国立極地研究所、国立音楽大学、東京学芸大学などと連携・協力し、講座開催やイベントにご協力いただきました。新たな団体や組織との連携を模索し、令和6年度には明治安田生命との協同講座開催を予定しています。 職員の企画力等の向上のため、東京学芸大学の講座の受講は引き続き行っております。

3. 生涯学習推進審議会によるコメント

総評	大学・企業などの工夫により柔軟な形式の事業が展開されている点は評価できます。市内に多くある様々な学校との協働を深め学生の活躍の場を広げたり、市内の企業や団体など連携先が見えるプラットフォームづくりを進めていくことも効果的と考えます。学びに軽重や偏りが無いよう企画立案し、より広い範囲での学びが創造されるよう配慮しつつ、取り組みが学習館や学習等供用施設との連携にも広がることを期待します。 学習機会を新たに創出し続けるためには情報収集と整理が大切で、職員の企画力だけでなく地域づくりを目指したコーディネート力を向上させ、時代に合わせてスピード感を持って取り組むことが求められます。
----	--

4. 評価

評価	評価	過去の評価	6年度	5年度	4年度	3年度	2年度
B	S：予想以上に効果的で優れた取組を行っている A：順調に達成している B：おおむね順調に達成している C：達成見込みであるが一部課題がある D：達成に向け困難な課題がある				B	C	C

立川市第6次生涯学習推進計画令和5年度取組状況の進捗評価表 (令和6年度実施)

1. 評価対象となる「具体化の取組」と取組状況・成果

取組	II-1-① さまざまな媒体の活用による広報
目的	広報たちかわやたちかわ市民交流大学情報誌「きらり・たちかわ」などの紙媒体や、ホームページ、ツイッターなどのSNSも活用し、多様な媒体による情報提供を行います。多言語への対応や、障害のある方に対しても情報を等しく届けられるよう、関連団体とも協力して取り組みます。行政がただSNSで発信しているだけでは効果に限界があることから、情報の受け手となる市民に認知され、拡散してもらうための施策の実効性を、費用対効果を含めて検討します。
主 関 な 係 事 業 する	●市民交流大学運営事業 ●成人対象事業
取組 5 年 度 状 況	「広報たちかわ」、市ホームページ、情報誌「きらり・たちかわ」（紙媒体）では原則としてすべての講座を紹介したほか、生涯学習推進センター公式X（旧ツイッター）で講座や催しについての情報提供を行ったほか、市公式LINEでも情報提供を行いました。 「きらり・たちかわ」（音声版）については、広報たちかわへの掲載、ガイドヘルパー事業所への情報提供、視覚障害者が参加する講座等で直接勧誘を行うなど、利用者の拡大に努めました。令和6年1月からはスマートフォンによる歴史民俗資料館の展示解説を楽しめるアプリを導入しました。
事業の 今後の 方向性・課題	【成果】「きらり・たちかわ」（冊子）については、講座情報以外の特集記事やイベント記事の充実に努めたり、新たな配架場所の開拓などにより多くの方に目にしてもらえるようになりました。また「きらり・たちかわ」（音声版）については、ガイドヘルパー事業所や視覚障害者へ直接働きかけを行う等、利用者の拡大に努め、新たな希望の申し出が1件ありました。 【課題】「きらり・たちかわ」は読者数が増えるような新規読者の獲得方法、「生涯学習情報コーナー」は、立ち寄りやすい雰囲気づくり等の工夫が課題です。 【今後の方向性】若年層、高齢者、障害者といった方々の誰もが情報を入手できるような情報発信に引き続き努めます。また、正確性と迅速性を第一に取り組むと同時に、受け手に興味を持ってもらう工夫も行います。

2. 前年度のコメントに対する取組

4 年度 総 評 (抜粋)	講座以外の身近な特集などもある「きらり・たちかわ」の紙面は非常に興味深い内容になってきており、大変評価できます。数多く配布されてわかりやすく広く市民に普及しており、こうした紙による広報は着実に市民に情報を届けるには重要な手段ですが、更にSNSの充実が必要と思われます。
5 年度 取 組 内 容	令和4年度は、コトリンクとりサイクルセンター、令和5年度は市内郵便局に「きらり・たちかわ」の配架場所の開拓ができました。また、令和5年1月より生涯学習推進センターとして独自にX（旧ツイッター）公式アカウントを取得し情報提供を始めたほか、市LINEでも情報提供を行いました。市LINEでの頻繁な投稿はブロックに繋がる恐れもあり、投稿内容の精査が必要と思われます。また、歴史民俗資料館ではスマートフォンを利用して展示解説を楽しめる無料のアプリ「ポケット学芸員」を導入し、本市の歴史等の情報を提供することができました。

3. 生涯学習推進審議会によるコメント

総 評	発行されている各種広報誌は魅力的で大変わかりやすいと感じます。「きらり・たちかわ」は市内郵便局に置いていただけるようになるなど配架場所や内容も充実してきていますが、活用している人が少ないように思います。何の冊子かわかりにくい点、一目で趣旨が明確に伝わるような「キャッチフレーズ」が表紙に表現されるなどの工夫が必要だと思います。 生涯学習情報コーナーの広報の仕方にも課題があり、CM風動画や常設パネルなどを活用していく必要があります。 情報発信の方法が多様多様になっているからこそその難しさもありますが、世代によってインターネットや紙媒体など求める媒体が異なるというアンケート結果をもとに、マスメディアの活用など新しい手法や考え方も取り入れて、充実に努めてください。
--------	--

4. 評価

評 価	A	S：予想以上に効果的で優れた取組を行っている A：順調に達成している B：おおむね順調に達成している C：達成見込みであるが一部課題がある D：達成に向け困難な課題がある	過去の 評価	6年度	5年度	4年度	3年度	2年度
						A	A	A

立川市第6次生涯学習推進計画令和5年度取組状況の進捗評価表 (令和6年度実施)

1. 評価対象となる「具体化の取組」と取組状況・成果

取組	II-1-② 学びの裾野を広げる情報発信
目的	市ではさまざまな学習機会を提供していますが、関心はあっても学びの最初の一步を踏み出せない人、自分にあった学びの機会を見つけられない人などが、より多く参加していただけるように、情報を届ける工夫をします。
主 関 係 事 業	●市民交流大学運営事業 ●成人対象事業
取組 5 年 度 状 況	地域活性化講座などでは、地域自治会や青少年健全育成地区委員会などにチラシの配布やPRを行いました。 子ども向け講座では学習館周辺の中学校、小学校を通して生徒や児童へチラシの配布を行いました。 講座情報誌「きらり・たちかわ」を市内各所に配架するとともに、個別の講座情報については募集チラシ・市ホームページ・生涯学習推進センター公式X（旧ツイッター）による周知にも努めました。
事 業 の 成 果 の 方 向 ・ 課 題	【成果】昨年度から始めた西砂学習館での地域学習館運営協議会の活動を紹介する「西一元氣通信」を継続して発行し、地域自治会などへ配布をお願いし、学習の機会の最初の一步として踏み出せる様に情報を届けました。また、生涯学習推進センターのX（旧ツイッター）アカウントを取得し講座の情報を若者世代などに広げる工夫をはじめました。 【課題】積極的に学びたい方や、関心の高い方には情報は届いていますが、勤労世帯や子育て世代の参加が少ない傾向にあるので、これらの方へ情報が届く工夫が課題です。 【今後の方向性】学習館を紹介するホームページに、開催したイベントや講座の報告を載せます。また、動画などのリンクを活用して、より多くの方に関心をもっていただけるように努めます。

2. 前年度のコメントに対する取組

4 年 度 総 評 (抜 粋)	家庭教育や介助方法など短い動画などで情報提供や講座紹介などを行う方法も効果が期待されます。関係職員のSNSなどへの対応について課題はありますが、変化しつつあるメディアの新たな発信方法に引き続き取り組むことも効果的です。SNSや学習館の掲示板にイベントや講座の予定表を告知し、さらに講座の申し込みがスマホやパソコンからできることが望まれます。一方で、紙媒体による情報提供も欠かせません。学習館での情報誌の発行など関係者の取組の成果が見られていますが、すべての学習館に広がるかどうかの課題もあります。
5 年 度 取 組 内 容	令和5年度では前年同様X（旧ツイッター）でイベントや講座の情報発信を行いました。また、LoGoフォーム（電子申請）により一部の講座での申し込みがスマホやパソコンで出来るようにしました。しかし、学習館の紙媒体での情報提供は他の館には広まっていません。今後紙媒体やデジタルにおいても共通した書式にするなど、すべての学習館で活用出来るように検討していきます。

3. 生涯学習推進審議会によるコメント

総 評	SNSを活用した情報発信や、オンラインでの講座申込などが進んでいることは評価します。課題にもあるように様々な媒体や仕組みを導入する中で、活用の幅を広げるため書式等を統一すること、年齢層の高い方にもスマートフォンやPCの普及率が高くなっているため、オンライン申込のための事前説明会を開催することに期待します。 「きらり・たちかわ」の普及のために市民推進委員やサポーターがモノレール駅や店舗等に依頼し配架場所を拡大してきたように、商業施設などでの広報活動を展開することであらゆる世代に広報することが可能になると思います。 また、西砂学習館における「西一元氣通信」のように独自の取組で一定の効果が現れているものに対しては他館での取組にも期待するとともに、新たな取組として「生涯学習等の啓発期間」を定め、展示や映像等を用いて広く知ってもらうなど今までにない取組も推進していくことを望みます。
--------	---

4. 評価

評価	B	S：予想以上に効果的で優れた取組を行っている A：順調に達成している B：おおむね順調に達成している C：達成見込みであるが一部課題がある D：達成に向け困難な課題がある	過去の 評価	6年度	5年度	4年度	3年度	2年度
						B	C	C

立川市第6次生涯学習推進計画令和5年度取組状況の進捗評価表 (令和6年度実施)

1. 評価対象となる「具体化の取組」と取組状況・成果

取組	II-1-③ 学習相談体制の充実
目的	「市民の共学・協働に育まれたまちづくり」を推進していくため、専門的な知識・技術の習得のみならず、地域に密着した人的ネットワークを構築できる職員の育成や、生涯学習に関する相談・助言体制の強化を図ることが求められています。職員は、学習のコーディネーターとして学習情報の提供を通じた市民ニーズの再発見を行い、市民が抱える課題を学びと結び付け、学習を通して実際に解決できるよう支援していきます。
主 関 係 す る 事 業	●市民交流大学 ●成人対象事業
取 組 5 年 度 状 況	生涯学習情報コーナーでの学習相談700件(前年度：同391件) (社会教育関係団体関連620件、生涯学習指導協力者(市民リーダー)関係11件、施設案内6件、学習相談6件、その他57件) 課内研修：生涯学習関係者研修1回(前年度：同1回) 事業連絡会2回(前年度：同2回)
事 業 今 後 の 成 果 方 向 ・ 課 題	【成果】相談窓口として、各学習館と生涯学習情報コーナー(女性総合センター・アイム1階)があることで、生涯学習に関する情報を求めている市民に対し、情報提供することができました。 【課題】スマートフォンやSNSの普及により個人で学習情報を簡単に獲得出来るようになり、施設予約システムの活用も進み窓口で市民と対面する機会が減少している。その様な中、情報コーナーは女性総合センターアイムにあり生涯学習の拠点とする学習館ではないため市民の学習に関する困り事や地域での課題相談ができる場所としての認識が広まっていないのが現状です。 【今後の方向性】地域学習館及び生涯学習情報コーナーが、課題解決に向けた助言ができるような相談窓口として機能を残しつつ、デジタルを活用した発信や相談を拡充していく方向や、研修などで職員の能力向上に向けた取り組みを続けるとともに、相談窓口としての機能をどのように持たせるか検討していきたいと考えています。

2. 前年度のコメントに対する取組

4 年 度 総 評 (抜 粋)	学習館等のWi-Fi機能を活用し、自宅から利用できるようオンラインで対応するなど、様々な手法での検討が待たれます。また、相談事の全てが繋がっていく様なネットワークをしっかりと構築し、情報の還元につながると思います。単なる情報提供窓口に留まらず、市民が抱える課題を学習を通じて実際に解決するようなコーディネーター役を果たせる職員を配置するなど体制の充実が必要です。
5 年 度 取 組 内 容	オンライン講座やLoGoフォーム(電子申請システム)を導入することはできましたが、令和5年度は学習相談についてはオンライン等を進める事ができませんでした。デジタルデバインドなどの問題もある中、デジタルでの発信と対面開催の必要性を含め情報発信の方法などの検討を進めています。

3. 生涯学習推進審議会によるコメント

総 評	生涯学習情報コーナーは来館者に場所や機能がわかりづらいことや相談しやすい雰囲気が整っていないなどの課題があり、学習館にいつでも相談に乗れる職員を配置することが効果的ですが、現状の職員体制のままでは相談に対応することは困難だと思います。学習相談等をインターネット上でできるアプリを導入したり、オンライン相談を行う方法も考えられます。また、地域ごとの相談件数や内容を調査し、より市民の希望に沿った相談体制を検討する必要があります。
--------	---

4. 評価

評 価	C	S：予想以上に効果的で優れた取組を行っている A：順調に達成している B：おおむね順調に達成している C：達成見込みであるが一部課題がある D：達成に向け困難な課題がある	過 去 の 評 価	6年度	5年度	4年度	3年度	2年度
						C	C	C

立川市第6次生涯学習推進計画令和5年度取組状況の進捗評価表 (令和6年度実施)

1. 評価対象となる「具体化の取組」と取組状況・成果

取組	Ⅲ-1-① 学びにかかわる市民や組織との協働
目的	これまで市では、たちかわ市民交流大学市民推進委員や地域学習館運営協議会委員、生涯学習市民リーダーをはじめとして、各種地域団体や施設利用団体とともに、それぞれが持つネットワークを生かした地域人材の把握・活用が行われてきました。今後も引き続き、さまざまな主体が互いに協働しながら生涯学習施策を推進し、市民力を生かしたまちづくりの実現を目指します。
主 関 係 する 事業	●社会教育関係団体等の育成事業 ●社会教育関係団体登録制度事務 ●成人対象事業 ●生涯学習市民リーダー登録制度事務 ●学校支援ボランティア事業 ●地域学習館事業
取組 5 年度 状況	生涯学習市民リーダー登録人数：延べ133人（前年度：延べ127人） 講師フェア来場者数：延べ509人（前年度：延べ393人） 学校支援ボランティア登録者数：90人（前年度：92人） たちかわ市民交流大学市民推進委員研修会：中止（前年度：開催数1回） 生涯学習関係者研修会：開催数1回（前年度：1回）
事業 今後の 成果・ 方向性 課題	【成果】生涯学習市民リーダーの「みんなの講座」を9回開催した中で、市民リーダーが講師を務める社会教育関係団体サークルへ複数紹介できました。また、生涯学習市民リーダーの作品展や体験講座、パフォーマンスをし、市民や他組織に周知する講師フェアを実施しました。 学校支援ボランティアについては、説明会を開催し登録者の募集を図り、ボランティアの裾野を広げることができました。 【課題】地域活性化講座やシルバー大学等では生涯学習市民リーダーが活用されていますが、ほかの団体との協働を広げていく必要があります。たちかわ市民交流大学構想の中の生涯学習市民リーダーと市民推進委員との一体的な取組を進めていく検討が必要です。 【今後の方向性】役員の担い手不足などを改善し、各団体としての機能を充実させるために、たちかわ市民交流大学として団体の統合等を検討し生涯学習市民リーダーと地域組織とで協働ができるよう努めてまいります。

2. 前年度のコメントに対する取組

4 年度 総 評 (抜粋)	各種地域団体や市民リーダーのこれまでの活動を更に多くの市民が理解できるように支援する必要があります。学校支援ボランティアについては、年2回募集するなど登録者の増員を図る工夫や、児童・生徒との接し方など学校に入る場合の心得を学ぶ機会、具体的にどの様な人が必要なのか、学校の要望を汲み取る工夫が必要です。
5 年度 取組 内容	令和5年度では、前年度に続き小学校・中学校で市民リーダーが講師とし学校での活用がありました。また、高松学習館では大学生と市民リーダー・地域学習館運営協議会の協働で子どもやその保護者に学習館を知ってもらうことをコンセプトに「たかまつり」を実施しました。市民リーダーの活動の報告として講師フェアを開催し、多くの市民の方に周知ができました。 また、学校支援ボランティア説明会以外に学芸大学においても学校支援ボランティアの説明を行い、ボランティアの裾野を広げることができています。

3. 生涯学習推進審議会によるコメント

総 評	生涯学習関係職員研修会に市民推進委員やサポーターが多く参加し、意欲向上につながっています。市民リーダーに活躍の場があるということは、学社一体や協働を進める上で重要な役割を果たしていると言えます。市民リーダーを活用した市民が活躍できる環境も整いつつありますが、さらに多くの市民が理解・共感できるような工夫があると良いと思います。また、より良い市民リーダーになるための講座を実施することやオンラインを活用した活躍の場を整えることが望まれます。 市民力を生かしたまちづくりを推進していく上で、ボランティアを受け入れる機会が増えていくことが予想されるため、守秘義務や参加ルール等について冊子等を用いて研修を行うなどの配慮をしていくことが求められます。
--------	--

4. 評価

評価	B	S：予想以上に効果的で優れた取組を行っている A：順調に達成している B：おおむね順調に達成している C：達成見込みであるが一部課題がある D：達成に向け困難な課題がある	過去の 評価	6年度	5年度	4年度	3年度	2年度
						B	B	B

立川市第6次生涯学習推進計画令和5年度取組状況の進捗評価表 (令和6年度実施)

1. 評価対象となる「具体化の取組」と取組状況・成果

取組	Ⅲ-1-② 地域を担う将来世代を育むしくみづくり
目的	それぞれの地域によって異なる特色と課題をどのように学びとして取り上げ、共有し、解決に向けて取り組んでいくのか、そのしくみづくりに取り組みます。地域の学習拠点である地域学習館においては、運営協議会委員がこうした取組の計画や運営、評価に積極的に関わられるようしくみを整えるとともに、自治会や社会福祉協議会との連携・協働を図り、出前講座の活用を促すなどして、地域の中での学習を支えます。
主 関 係 する 事業	●地域学習館事業 ●成人対象事業 ●地域学習館事業 ●地域学習館まつり事業 ●催物事業 ●学習等供用施設管理運営 ●社会教育関係団体等の育成事業 ●学校支援ボランティア事業 ●歴史・民俗普及活動事業
取組 5 年度 状況	地域活性化講座：開催数89件、参加者数881人（前年度：同51件、同1771人） 歴史民俗資料館体験学習会等：開催日数13日、参加者数251人（前年度：同13日、同258人） 昔の道具体験：実施校17校（前年度：同8校） 六面石幢の修復事業
事業 今後の 成果・課 題 方向性	【成果】地域の特色や課題を踏まえた講座である、地域活性化講座や歴史（地域学習館運営協議会主体として企画する講座等）を実施することにより、地域の課題解決へ向けての仕組みづくりは定着化しつつあります。また、将来世代の育みとしては、地域学校協働本部の「地域学校コーディネーター」や「学校支援ボランティア」が子ども達へ支援したり、歴史民俗資料館事業では郷土学習への支援を行いました。 【課題】各学習館では講座等の事業を通し、地域の拠点として各団体との連携・協働を進めていき、地域特有の課題の把握や将来世代の育成を進めていく必要があります。学習等供用施設の管理運営を行う管理運営委員会のメンバーが高齢化している状況がみられます。また、生涯学習の担い手となる人材の不足が顕在化しています。 【今後の方向性】地域と学校との連携を進め、将来世代を育む取組みとして、地域学校コーディネーターと地域学習館（運営協議会）との繋がりを広げ「学社一体」を推進するための地域づくりを進めていきます。また、学校で必要な地域資源を自治会や社会福祉協議会などと協働し派遣をし、学校教育と社会教育を結び地域の学習の拠点として地域学習館が活用できる取組を進めていきます。

2. 前年度のコメントに対する取組

4 年度 総 評 (抜 粋)	各学習館の学習コーナーで勉強する中・高校生を春休み・夏休みの企画・学習館まつりに巻き込む工夫や、若い層の資格取得者など次世代を担う市民リーダーの掘り起こしを行うほか、多くの収蔵品がある歴史民俗資料館の見学や学校教育における立川市民科の取り組みを通して児童・生徒の生涯学習への理解を進めるなど、新たな取り組みも必要です。
5 年度 内 容 取 組	柴崎学習館で行った「こども冬まつり」では、地域の学校から運営としてのボランティアを募集するなど、子どもが学習館に関われる取り組みを行いました。また、歴史民俗資料館では昔の道具体験として学校支援ボランティアの方が学校教育における取り組みを行いました。学校支援ボランティア説明会を開催し、13名の参加をいただきました。学校支援ボランティアとして授業の見守り、学校支援などで21校の小中学校へ延べ60人を派遣しました。

3. 生涯学習推進審議会によるコメント

総 評	地域学校協働本部の活動について、地域学習館運営協議会が地域学校コーディネーターとの連携を模索したり、学校の状況を把握する試みなどは評価できます。さらに地域学校コーディネーターと学校がしっかり連携できるよう、双方により丁寧な説明をしていくことが求められます。地域学校協働本部事業や学校支援ボランティア等の具体的な取り組み事例を立川市教育だより「たっち」で取り上げ、誰でもできる協力・支援体制をつくり上げていく必要があります。 地域学習館については、これまであまり積極的にアプローチしてこなかった自治会や社会福祉協議会などとの連携を強化したり、学習コーナーを利用する中高生をまつり事業などに巻き込むようなことも検討していくべきだと考えます。
--------	---

4. 評価

評 価	B	S：予想以上に効果的で優れた取組を行っている A：順調に達成している B：おおむね順調に達成している C：達成見込みであるが一部課題がある D：達成に向け困難な課題がある	過 去 の 評 価	6年度	5年度	4年度	3年度	2年度
						B	B	B

立川市第6次生涯学習推進計画令和5年度取組状況の進捗評価表 (令和6年度実施)

1. 評価対象となる「具体化の取組」と取組状況・成果

取組	Ⅲ-1-③ 「立川市民科」の推進
目的	「立川市民科」は、他の自治体には見られない特徴的な取組です。特に学校教育における取組は先進的で、既に一定の成果が出ています。一方で、生涯学習における「立川市民科」の取組は黎明期にあります。定着化とさらなる発展に取り組めます。また、「立川市民科」の考え方と方向性を市民にわかりやすく発信するよう努めます。
主 関 係 す る 事 業	●成人対象事業
取 組 状 況 5 年 度	立川市民科講座：開催日数6日、参加者数111人（前年度：同5日、同51人） ○立川地名の由来 ○本を持たない二宮金次郎像（講演） ○環境学習講座「わらぼっちの一輪挿しを作しましょう」 ○2023環境フェア
事 業 の 成 果 ・ 方 向 性 課 題	【成果】郷土学習を通してまちを知り、地域に愛着を持ち、地域に貢献する立川市民科の講座として、「立川地名の由来」などの講座を実施しました。また、昨年行った「本を持たない二宮金次郎像」の記念講演を行いました。第八小学校の子ども達にもなじみのある二宮金次郎像であり戦争遺構であるため、学校への配布が出来るようにA5版のミニブックレットにするなど、工夫をし制作しました。 【課題】DVDやブックレットの作成には職員のスキルの他人員体制の充実が必要です。「立川市民科」が定着し発展させるためには、今後も継続して取り組んでいく必要があります。 【今後の方向性】職員へのブックレットの作成研修を行います。また、「立川市民科」に即した講座を実施するとともに、地域学習館のイベント等においても「立川市民科」の周知に努めます。

2. 前年度のコメントに対する取組

4 年 度 総 評 （ 抜 粋 ）	市民が主体的に行動する社会の担い手となるまでが「立川市民科」だという前提に立った取り組みをお願いします。具体的には、地域に関する課題を発見して解決するための提言やボランティア活動、地域で開催されている地域に関するイベントを紹介するなどが考えられます。立川市民科に対する職員のコーディネート力を向上することも重要です。
5 年 度 取 組 内 容	「立川市民科」は他の講座事業においても関わる事業を実施しています。令和5年度では「立川地名の由来」や平和人権講座事業で「立川市民の戦争」講座等を行っています。「立川地名の由来」の講座は地域をよく知る方に講師になっていただき、この方の知見が未来につながるよう動画にて保存し、活用を検討します。しかし、市民が主体的に行動する社会の担い手となるところまでの取り組みには至っていません。今後、これらの事業において講座の受講だけでなく担い手としての育成等が課題のため方策の検討をします。

3. 生涯学習推進審議会によるコメント

総 評	新たな取組にも着手し、立川市民科の裾野を広げつつある点については評価できますが、立川市民科の概念や目指すところが浸透していないように感じます。講座の中でコンセプトの説明などを繰り返し行いつつ、立川市民科の目的に沿って地域課題解決を目指す方策についても検討していく必要があります。 平和人権事業「立川市民の戦争」講座など次世代への継承が課題となっており、DVDに記録を残したり、地域特性をまとめたブックレットを分野ごとに作成したりするなど計画的に取り組むことが必要です。また、講座参加者がすでにある活動団体に入っていけるなど継続的に関わる仕組みを検討することが求められます。
--------	---

4. 評価

評 価	B	S：予想以上に効果的で優れた取組を行っている A：順調に達成している B：おおむね順調に達成している C：達成見込みであるが一部課題がある D：達成に向け困難な課題がある	過 去 の 評 価	6年度	5年度	4年度	3年度	2年度
						B	B	B

立川市第6次生涯学習推進計画令和5年度取組状況の進捗評価表 (令和6年度実施)

1. 評価対象となる「具体化の取組」と取組状況・成果

取組	Ⅲ-2-① コーディネーターとしての職員の養成、研修体制の強化
目的	職員のコーディネート力は、今後の地域学習館のあり方を考える上で無くてはならない能力であり、積極的な能力開発・育成が求められています。各施設に配置された職員が、利用者や地域団体との情報交換を通して、地域で活動する団体の活動内容や活動の核となる人材を把握し、その情報を必要とする人と結ぶことができるよう、職員のコーディネート力のより一層の向上に努めます。また、具体的な地域課題を学びにつなげる企画力、市民と協働して学びを展開する実践力を研修などを通じて養っていきます。
主 関 係 す る 事 業	●生涯学習活動推進事業
取 組 5 年 度 状 況	平成29年度から始まった、東京学芸大学で開催された全8回の「コミュニティ学習支援コーディネーター養成講座」を生涯学習推進センター職員3名が受講しました。そのほか、社会教育主事講習や市民協働研修など、職員の研修の受講を積極的に進めました。
事 業 の 成 果 ・ 課 題 ・ 課 題 の 方 向 性	【成果】東京学芸大学の「コミュニティ学習支援コーディネーター養成講座」受講は7年目になり延べ23名が受講しており、職員の能力向上に大きく寄与しているものと考えています。 【課題】研修を受講した職員が学んだことを、他の職員と共有する取り組みがもう少し必要です。 【今後の方向性】今後も東京学芸大学の公開講座に生涯学習推進センター職員をはじめ市職員を派遣するとともに、課内研修をはじめ、職員間でも自身が学んだことの還元や共有をすすめ、コーディネート力の向上を目指します。

2. 前年度のコメントに対する取組

4 年 度 総 評 (抜 粋)	研修を継続的にを行っている点は評価できますが、組織的に力量を育成し維持していくことと、事業の質を高めることを一体的にとらえ、すべての職員が学びあうことのできる力量形成のあり方を検討し、着実に取り組んでください。また、人員体制の強化など地域学習館の職員が学んだことを十分に発揮できるような環境や体制づくりも必要です。
5 年 度 取 組 内 容	令和5年度も生涯学習スタッフ研修などを実施し、一定の取り組みが行われましたが、組織的に力量を育成したり、事業の質を高めたりするまでには至りませんでした。学習館職員を中心にコーディネート力の向上に努める必要があります。

3. 生涯学習推進審議会によるコメント

総 評	学習館職員には幅広い知識と熱意が必要で、中教審答申や生涯審答申からどのような役割を求められているかを知り、地域や住民に対する感度の高いアンテナがなければ地域課題を学習や情報提供につなげていく力にはなりません。そのために研修への参加が継続的に行われていることは評価できますが、インプットされた内容が活用されていない状況にあるため、アウトプットできる場や企画の拡充を図る必要があります。 主要な研修については立川市の職員研修計画等に位置付けたり、連携できる他部署と研修の在り方を検討してみたいでしょうか。人の話を聞き、コーディネートし、合意形成を行っていく能力は多様化する社会の中で行政職員としての力量の向上にもつながります。 学習館に勤務する会計年度任用職員が生涯学習事業を支えている実態があり、業務内容に応じて職名を変えている市もあります。誇りを持って働けるような職名に変更することを検討してください。
--------	--

4. 評価

評 価	C	S: 予想以上に効果的で優れた取組を行っている A: 順調に達成している B: おおむね順調に達成している C: 達成見込みであるが一部課題がある D: 達成に向け困難な課題がある	過 去 の 評 価	6年度	5年度	4年度	3年度	2年度
						C	C	C

立川市第6次生涯学習推進計画令和5年度取組状況の進捗評価表 (令和6年度実施)

1. 評価対象となる「具体化の取組」と取組状況・成果

取組	Ⅲ-3-① 学習施設の充実と利便性の確保
目的	将来にわたって生涯学習・社会教育を推進していくためには「学習の場の確保」は必須条件です。複合化などにより施設のかたちが変わるとしても、学習施設が持つ「機能」については確実に維持し、市民の学習活動が後退することのないよう、限られた施設や資源を有効活用する方策を検討します。
主 関 係 する 事業	●生涯学習推進審議会事業 ●地域学習館維持管理 ●学習等供用施設管理運営
取組 5 年度 状況	砂川学習館／地域コミュニティ機能複合施設（仮称）の建替え工事を開始し、西砂学習館中規模改修工事、滝ノ上会館中規模改修工事を行いました。
今 後 の 方 向 性	【成果】建替えや中規模改修工事を、施設利用者・周辺住民の声を聞きながら行うことにより、学習施設の機能が維持されるものとなりました。 【課題】学習等供用施設へのWi-Fi設置など、Wi-Fiエリアのさらなる拡大が必要です。 【今後の方向性】砂川学習館／地域コミュニティ機能複合施設（仮称）の建替え工事を進めるとともに、こぶし会館改修工事の設計に取り組みます。引き続きオンラインでの講座開催を促進していきます。

2. 前年度のコメントに対する取組

4 年度 総 評 (抜粋)	砂川学習館以外の学習施設についても、利便性の向上と同時に地域住民の学習拠点と交流の拠点として、庁内で連携し市民の意見をいかしていかに使いやすくなるか、提供する側の努力に期待しています。Wi-Fiの設置は引き続き拡充を進めつつ、オンラインの活用事例を増やす取り組みや事例共有が重要となります。
5 年度 取 組 内 容	令和5年度は、砂川学習館・地域コミュニティ機能複合施設（仮称）建替え工事のほか、西砂学習館中規模改修工事、滝ノ上会館中規模改修工事について、地域学習館運営協議会や地域への説明会等で意見を聞くほか、管理運営委員会や庁内関係部署・事業者と定例会議を行い、十分連携して進めました。設置されたWi-Fiを活用し、オンラインによる講座を複数開催したほか、柴崎会館・滝ノ上会館にWi-Fiを設置しました。

3. 生涯学習推進審議会によるコメント

総 評	新型コロナウイルスをきっかけにWi-Fiの有効性が認識される中で、順次配置されている点は評価できます。オンラインの活用は学習機会の拡大につながるため、既設の施設でも全館や屋外が使えないなど、利用可能エリアが制限されている点については、各館の差が地域格差につながらないように改善していく必要があります。今後はコロナ禍で飛躍的に進んだデジタル化に対応するための不断の改善・改良が必要となってくるとともに利用する市民側のアップデートについても合わせて方策を練ることも必要です。 学習スペースの開放はいい取り組みだと思います。開放していることを専用アプリなどで見ることができれば、特に若い方にとっては活用しやすくなるのではないのでしょうか。
--------	---

4. 評価

評 価	B	S：予想以上に効果的で優れた取組を行っている A：順調に達成している B：おおむね順調に達成している C：達成見込みであるが一部課題がある D：達成に向け困難な課題がある	過 去 の 評 価	6年度	5年度	4年度	3年度	2年度
						B	C	C

立川市第6次生涯学習推進計画令和5年度取組状況の進捗評価表 (令和6年度実施)

1. 評価対象となる「具体化の取組」と取組状況・成果

取組	Ⅲ-3-② 公平で柔軟な施設利用の推進や学習施設の連携促進
目的	地域学習館などの学習施設では、利用者の利便性の向上と公平性の確保を目的として、パソコンや携帯電話・スマートフォンなどから施設の空き状況確認や仮予約ができる「施設予約システム」を導入しており、幅広い地域からさまざまな年齢層の方が利用しています。 これに対して学習等供用施設は、指定管理者が窓口で直接受け付ける申込方式を採用し、電子機器の利用に不慣れな方の学習機会を確保しており、地域住民の身近な学習施設として親しまれています。また、地域学習館や学習等供用施設は、学校を筆頭に、他の学習施設や児童館、図書館、歴史民俗資料館など、学びやまちづくりに関わる多様な施設との連携を進めます。
主な関係する事業	●生涯学習活動推進事業 ●地域学習館事業 ●地域学習館維持管理 ●学習等供用施設管理運営
取組状況 5年度	施設予約システムを維持管理し、オンラインによる施設利用申込を地域学習館、女性総合センター、子ども未来センター、市民会館、体育館で実施しました。 施設予約システム：利用者登録13,016件（前年度：利用者登録12,522件）
事業の成果・課題 今後の方向性	【成果】パソコンや携帯電話、スマートフォンなどから施設の空き状況や仮予約ができる手軽さから市公共施設の予約手続きの利便性が図られています。誰でもアクセスできるシステムかつ抽選による予約方式を取り入れていることから、公平性が確保されています。 【課題】来館せずにシステム上で本予約が完了するなど、さらなる利便性が求められています。各施設の端末が老朽化し、機器故障により一時的にシステムを利用できない問題が発生しました。 【今後の方向性】システム更新の検討や機器更改などシステムのさらなる改善を実施してまいります。学習等供用施設と学習館の連携・情報共有を進めます。

2. 前年度のコメントに対する取組

4年度総評 (抜粋)	システム老朽化対策など、持続性を意識した変更など検討する必要があります。インターネット上で行えるのは仮予約までとなりますが、本予約や取り消しもインターネットでできるよう検討を望みます。地域学習館と学習等供用施設のイベント等の情報共有などは確実に実施してください。地域学習館の改修工事等の際は、学習等供用施設との連携が深められる具体的な策等の明示を求めます。
5年度内容 取組	令和5年度は機器の維持管理やシステムの管理など、システムの安定供給に努めるとともに、システム更新に向けた検討を始めました。学習等供用施設との連携については、建て替え中の砂川学習館での活動や団体を近隣の会館にて利用を受け入れるなどの工夫をしています。

3. 生涯学習推進審議会によるコメント

総評	学習施設の利便性をより高めるために全庁的なDX改革に期待しますが、トラブルに対する脆弱性やセキュリティなどの課題も見込まれることから、システムの多重化や利用者の声を取り入れた使いやすいシステム改善への取り組みが求められます。また、生涯学習推進センターが管理する施設予約システムではインターネット上での本予約や取消、支払いができると利便性が高まります。ただし、利便性の向上とともに無断キャンセルが増え、使用できない団体が増えないように考慮する必要があります。施設間連携について、施設関係者の気付きを学校を筆頭に多様な施設と共有し連携を深めたり、地域学習館と学習等供用施設が定期的に情報交換を行い、ともに地域課題を解決していく場として役割を共有し、地域へ提供されるよう連携が深められることを望みます。
----	--

4. 評価

評価	C	S：予想以上に効果的で優れた取組を行っている A：順調に達成している B：おおむね順調に達成している C：達成見込みであるが一部課題がある D：達成に向け困難な課題がある	過去の評価	6年度	5年度	4年度	3年度	2年度
						C	C	C

立川市第6次生涯学習推進計画令和5年度取組状況の進捗評価表 (令和6年度実施)

1. 評価対象となる「具体化の取組」と取組状況・成果

取組	Ⅲ-3-③ 施設の維持管理
目的	地域学習館や学習等供用施設は、いずれも長い歴史と伝統を持って地域に定着しています。一方で、施設や備品は歴史に相応して著しく老朽化が進んでおり、適切に維持管理しなければ、学習活動を制限したり疎外したりする一つの要因となりかねません。それだけでなく、災害時にはすべての地域学習館や学習等供用施設が避難所として利用される場合があります。市民の安心・安全を確保するためにも、施設の老朽化対策は喫緊の課題です。 市民が安心して施設を利用することができるよう、公共施設再編の動向も注視しつつ、適切な維持管理に努めます。
主 関 係 事 業	●地域学習館維持管理 ●学習等供用施設管理運営 ●歴史民俗資料館施設管理 ●古民家園施設管理 ●八ヶ岳山荘管理運営
取組 5 年 度 状 況	砂川学習館の建替え工事開始、西砂学習館中規模改修工事、滝ノ上会館中規模改修工事を始め、幸学習館エレベーター改修工事、八ヶ岳山荘照明塔改修工事、歴史民俗資料館屋根防水改修工事など大きな工事を行いました。そのほかにも、経年劣化に伴う施設の各所修繕を行いました。
事 業 今 後 の 成 果 方 向 性・課 題	【成果】中規模改修工事をはじめ各所修繕を修繕を実施したことによって、施設の適切な維持に寄与することができました。 【課題】ほとんどの生涯学習関連施設は築30年以上で老朽化が進んでいることから、雨漏りや故障等の緊急的な修繕を優先せざるを得ないため、施設の美観の維持や機能をレベルアップするような工事等ができないことが継続的な課題です。また、歴史民俗資料館は貴重な文化財の保存と展示等活用を行う施設であり、施設の老朽化に加え飽和状態にある収蔵資料を適切に保存する環境等を整えていく課題があります。 【今後の方向性】生涯学習の地域拠点として、また、発災時の避難場所として、利用者の安全性や利便性等を最優先としたうえで、施設や設備の経年劣化に対し、計画的に修繕等を進めます。今後は、砂川学習館／地域コミュニティ機能複合施設（仮称）への建替えと、西砂学習館・滝ノ上会館の改修工事を行うとともに、こぶし会館の改修工事に向けた準備を進めてまいります。

2. 前年度のコメントに対する取組

4 (年 度 総 評)	引き続き適切な維持管理を行うとともに、公共施設再編において、持続可能な生涯学習の場の確保を図ってください。学習館や学習等供用施設が避難場所として開放される回数も増えてきており、災害対策にも充分配慮し、何が必要なのか具体的に検討し、常備して欲しいものです。
組 5 年 度 内 容 取	令和5年度は日常的な維持管理に伴う修繕のほか、建替え工事や中規模改修工事などを行いました。令和6年度は引き続き砂川学習館の建替え工事を進めるとともにこぶし会館中規模改修工事設計、錦学習館エレベーター改修工事など計画的に実施してまいります。

3. 生涯学習推進審議会によるコメント

総 評	突発的な緊急修繕も頻発することが予想される中、施設の状況に合わせた改修などは評価でき、特にトイレやエレベーターの改修は市民ニーズに応えられていると思います。今後も市民ニーズは増えていくと思われますので、優先順位をつけて市民が一生学び続けられる環境整備に取り組んでください。また、災害や有事の折に市民が安心できる拠り所となるよう必要備品やライフライン、情報等の確保などについても万全の対策を図ることが必要です。 歴史民俗資料館については、西砂地区などでの急速な宅地開発により、古民家や農具などの資料保存が間に合わないなどの情報もあり、機動的に保管場所を確保するなど貴重な地域資料が損失することのないように施設を整備していく必要があります。また、資料の保存をデジタル化したり、見学会の実施やVRシステムによる体験など地域住民に地域の宝物として意識づけを行っていく必要もあります。
-----	--

4. 評価

評 価	B	S: 予想以上に効果的で優れた取組を行っている A: 順調に達成している B: おおむね順調に達成している C: 達成見込みであるが一部課題がある D: 達成に向け困難な課題がある	過 去 の 評 価	6年度	5年度	4年度	3年度	2年度
						B	B	B